

Erythropoietin Resistance Index and the All-Cause Mortality of Chronic Hemodialysis Patients

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岡崎, 真之 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/31329

Erythropoietin Resistance Index and the All-Cause Mortality of Chronic Hemodialysis Patients

(慢性血液透析患者におけるエリスロポエチン抵抗指数と生命予後)

東京女子医科大学内科学(第四)教室

(主任:新田 孝作 教授)

岡崎 真之

Blood Purification 第 37 巻 第 2 号 106-112 頁 (2014 年 5 月発行) に掲載

【要旨】

【目的】慢性血液透析患者において高容量の ESA 投与にもかかわらず低ヘモグロビンを呈する患者の生命予後は不良であることが知られている。しかし、ESA 量とヘモグロビンの関係が生命予後にどの程度影響を与えるかは明らかではない。

本研究の目的は、ESA 抵抗性と生命予後の関連を調査することである。

【方法】常磐病院外来で、2011 年 7 月 1 日から 2013 年 7 月 31 までの間に 6 カ月以上の血液透析療法を受けている患者を対象とした前向き研究を行った。敗血症、悪性疾患合併、他施設へ転院した患者などを除外した 248 名が対象となった。

ESA 抵抗性の指標としてエリスロポエチン抵抗指数 (ERI) を用いた。調査に先立つ 3 カ月間 (2011 年 4 月 1 日から 2011 年 6 月 30 日) で集められたデータをもとに ERI を算出し、患者を 3 群に分割した。その後の 2 年間の死亡率を調査し統計学的解析を行った。

【結果】ERI が最も高い群は、ERI が最も低い群に比べ死亡率が高いことが確認された。年齢、血清アルブミン値での調整後も同様であった(多変量 Cox ハザード解析: $P=0.0121$, ハザード比: 4.204; 95% 信頼区間: 1.173-15.065)。

【結論】維持血液透析患者において高い ESA 抵抗性は死亡率の増加と関連することが示唆された。